

## 大雪山国立公園：概要

起伏に富んだ山脈、火山性の地形、混交林、そして自然のままの湖は、大雪山国立公園の印象的な自然の景色の一部です。面積 2,268 平方メートルの大雪山は、日本最大の陸の国立公園で、そびえ立つ火山性の雪山がその名前の由来でもあります。この国立公園は、北の表大雪エリア、南東の東大雪エリア、そして南西の十勝岳エリアという 3 つの地域に分かれています。

### 表大雪

大雪山火山群が表大雪エリアの大部分を占めており、巨大なカルデラを囲む複数の火山から構成されています。チングルマや黄色いツツジなどの高山性の花々が、春と夏には、山腹を明るく染め、黄色い羽根のウスバキチョウや複雑な模様のアサヒヒョウモンといった蝶が集まってきます。

旭岳は、(2,291 m) は、北海道最高峰の山で、活火山です。その高山草原や火山の噴気孔が登山者の間で人気を集めており、旭岳ロープウェイで登ることもできます。黒岳 (1,984 m) も人気の山で、層雲峡温泉郷へロープウェイで簡単にアクセスできます。登山を終えたら、温泉でゆったりするのもよし、あるいは、滝が流れ落ちる溪谷で、柱状節理でできた柱のような崖がそびえ立つ層雲峡を散策するのも良いでしょう。川が流れる溪谷沿いには複数の散策路があり、ラフティングによる急流下りツアーも用意されています。

赤岳（2,078 m）へ通じるルートは、層雲峡から車で1時間の銀泉台が登山口です。山腹が鮮やかな色彩に包まれる秋の美しさで有名です。大雪山の秋は、日本のどこよりも早い9月中旬に始まります。

表大雪にある高原温泉エリアには多くの湿原があり、今でも多くのヒグマたちの住処になっています。沼地を散策すれば、遠くからその姿に遭遇するかもしれません。出発前には、沼地のコース入り口にあるヒグマ情報センターで名簿に記入し、安全に関する必須のレクチャーを必ず受けてください。

## 東大雪

東大雪の十勝三股カルデラの深い森の頭上には、険しく起伏に富んだ石狩山脈がそびえます。エゾマツ、トドマツ、ダケカンバの森には、シマフクロウ、ミユビゲラ、タイリクモモンガといった多くの鳥や動物たちが生息しています。

然別湖は、講演の南東にある、標高の高い湖です。穏やかなため、カヌーやカヤックなどのアクティビティを楽しむのに理想的です。複数の標高の低い山や深いコケに覆われた森に囲まれています。森の岩場には、甲高い声で鳴く小さなウサギのような哺乳類、キタナキウサギが生息しています。

糠平湖は、1956年の糠平ダム完成時に誕生しました。1年の半分は、かつてこの辺りを通っていた土幌線の跡であるアーチ橋のタウシュベツ川橋梁は水中に隠れています。冬から春にかけて湖の水面が下がる頃にその姿を表すことから、「幻の橋」と呼ばれています。

## 十勝岳

十勝エリアは、十勝火山群がそのほとんどを占めています。十勝岳（2,077 m）が最も高く、火口やクレーターがあちこちに見られます。この辺りのハイキングコースは、白金温泉や十勝岳温泉といった麓の多くの温泉郷が起点になっています。富良野岳（912 m）は、十勝岳温泉からアクセス可能で、東側の傾斜には原始ヶ原という美しい湿原が広がっています。初夏には、白くてふわふわしたワタスゲが湿原を覆います。